

## 勇払原野でオオジシギ保護調査 プロジェクトを開始します。 保全のための生息状況と渡りルート の解明 ～日豪協働研究～

(公財)日本野鳥の会(事務局:東京、会長:柳生博 会員・サポーター数4万6千人)は、北海道苫小牧市の勇払原野において、オオジシギ(準絶滅危惧種 NT)の保全を行なうために、生息状況と渡りルートの調査をおこないます。

.....

ホームページ <http://www.wbsj.org/mng/?p=18639>

フェイスブック [オオジシギ保護調査](#) 検索



### 1. 何のためにオオジシギを調べるのか

野鳥の種および生息地の保護を通じた生物多様性の保全を掲げる当会は、絶滅危惧種であるシマフクロウ、タンチョウ、カンムリウミスズメ、アカコッコなどの保護事業の実施を通し、森林、湿原、海洋、島嶼という異なる環境の保全を進めています。

2015年度にウトナイ湖と北海道の自然保護に役立てて欲しいという趣旨でご遺贈があったことから、北海道内に生息する種を対象に新規事業対象種の選定を行ないました。

その中で、①世界的に見ても分布域がほぼ北海道のみと非常に狭いこと、②近年個体数の減少が著しく、絶滅危惧度が上がる可能性が高いこと、③草原・原野環境に生息する他の鳥類の保護につながる指標種にもなりうること、④環境選択の幅が狭く、環境変化への柔軟性が低いこと、⑤生息地が開発行為等によって失われやすいこと、⑥ウトナイ湖周辺が非常に重要な生息地であること、などを理由にオオジシギを選定しました。

### 2. プロジェクトのきっかけとなったご遺贈

2015年、長年にわたりウトナイ湖サンクチュアリの活動をご支援くださっていた越崎清司(こしぎ きよし)様より、ウトナイ湖サンクチュアリと北海道の野鳥保護のために使って欲しいという趣旨のご遺贈がありました。日本野鳥の会では、越崎様のご遺志に沿った用途を検討し、道内に生息し現時点で保護が必要な種としてオオジシギを選定して保護プロジェクトを開始することとしました。

### 3. 道民には身近？オオジシギとはどんな鳥

オオジシギは、北海道を主な繁殖地とし、本州や九州、またロシア極東の一部でも繁殖が確認されているシギの仲間で、秋から冬にかけて南半球のオーストラリアで越冬します。体長は約 30cm、体重は 170g ほどで、ハトより一回り小さい程度の大きさです。



道内では、畑や牧草地、草原など身近な環境にも生息しているので、オオジシギという名前を知らなくても、春から初夏、草原や湿原の上空でザザザザと大きな音を鳴らしながら急降下を繰り返す鳥といえばお分かりいただけるかもしれません。しかし、身近な鳥であった彼らも、実はいつの間にか数が減っているといわれています。

環境省版レッドリストでは、本州中部で生息地が減少しているという理由から準絶滅危惧種 (NT) となっています。また、北海道でも十勝地方で行われた調査で、1978～1991 年と 2001 年を比較して個体数が減少していることが指摘されています。さらに、越冬地であるオーストラリアでも越冬数が減少しているとされていますが、近年は調査が行われていないためよくわかっていません。また、渡りの主要な中継地も把握されていない中、渡りの際に利用すると考えられる内陸の湿地の減少も懸念されています。

### 4. オオジシギの越冬地オーストラリアから研究者が来日

オオジシギの越冬地であるオーストラリアのヴィクトリア州から、Federation University Australia の Birgita Hansen 教授ら 4 名が調査のために来日します。勇払原野では 7 月 19 日から 29 日までの予定でオオジシギを捕獲し、20 個のジオロケーター (※) を装着して越冬地での再捕獲と機器の回収を試みます。

また、繁殖地と、越冬地の交流をおこなうため、7 月 14 日 (木) に植苗小学校を訪問し、3～6 年生に向けて講演等をおこないます。

※ジオロケーターは明るさや水温などを時刻とともに記録できる小型の機器で、明るさから日の出日の入りの時刻を推定し、その時刻からその日に機器があったと思われる位置を推定することができます。重量は 1g を切るものもあるほど小型化できるため、近年、小型の鳥類の渡り経路を推定する際に用いられるようになりました。

### 5. オオジシギ捕獲調査 (衛星追跡用送信機・カラーフラッグの装着)

分かっていないことが多いオオジシギの生態について、渡り経路を解明するため 5 羽に重さ 5g 弱の衛星追跡用送信機を装着します。送信機から送信される電波を追跡することで、勇払原野から越冬地までの渡り経路を明らかにする計画です。追跡に成功すれば、世界初となります。

カラーフラッグは、オオジシギの脚につけるプラスチック製の小さな目印で、それを野外で観察した際の日時や場所に関する情報を収集することで、移動経路を推定します。多くのバードウォッチャーにフラッグを着けたことを知っていただき、情報収集することを計画しています。

## 6. 植苗小学校訪問

7月14日に日本野鳥の会職員とオーストラリア研究者が植苗小学校を訪問し、3年生から6年生までの40人を対象に、日本、オーストラリアでのオオジシギの暮らしの違いなどを紹介します。時間は13時10分から14時45分までの2校時分を予定しています。オーストラリアの研究チームには小学校教諭も参加しており、将来的に児童同士の交流も視野に入れた訪問を予定しています。

## 7. オオジシギ勉強会と専門家による意見交換会

### ▼実施概要

タイトル：オオジシギ勉強会～オオジシギを見直そう～ 一般向け（オープン）

日時：2016年7月18日（祝月）13：00～15：10

会場：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター  
（北海道苫小牧市字植苗 156 番地 26）

<http://urx.blue/uHqb>

内容：オオジシギのくらしや生態、生息地の環境変化と、越冬地オーストラリアの様子などについて。（日豪5名の研究者による講演）

参加費：無料 ・ 申込み不要

主催：（公財）日本野鳥の会

オーストラリアの研究者の発表では、逐次通訳を行います。

プログラム：

「北海道と周辺地域におけるオオジシギの生息状況」 藤巻裕蔵（帯広畜産大学名誉教授）

「オオジシギの生活史と繁殖生態」 浦達也（日本野鳥の会）

「勇払原野の保全の歴史」 中村聡（日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ）

「日本野鳥の会のオオジシギ保護プロジェクト」 田尻浩伸（日本野鳥の会）

「越冬地オーストラリアでの現状（仮題）」 Brigita Hansen (Federation University Australia 教授)

### オオジシギの保全に関する意見交換会（クローズド）

日時：2016年7月18日（祝月）15：30～17：00

会場：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター  
（北海道苫小牧市字植苗 156 番地 26）

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/shizen/shizenhogo/utonai/shisetsuannai.html>

日時：7月18日（月・祝）午後3時30分～5時00分

主催：公益財団法人 日本野鳥の会

概要：オオジシギやその生息地の現状について自由に意見交換を行い、保全を進めていく上での課題等を共有します。

主な参加予定者：藤巻裕蔵（帯広畜産大学名誉教授）、玉田克己（北海道立総合研究機構）、上田恵介（立教大学名誉教授／日本野鳥の会副会長）、Birgita Hansen（オーストラリア研究者）

<配布先> 苫小牧市役所記者クラブ

---

**【事業に関するお問合せ・取材のお申込みは】**

公益財団法人 日本野鳥の会

保全プロジェクト推進室 TEL 03-5436-2634／FAX 03-5436-2635  
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

担当：田尻

ウトナイ湖サンクチュアリ TEL 0144-58-2505／FAX 0144-58-2521  
北海道苫小牧市植苗 150-3

**※写真の使用について**

写真の画像データは提供可能です。使用される場合には、「日本野鳥の会」のクレジットの記載をお願いします。